

## “ one for all , all for one ” について

“ one for all , all for one ” の出所と問いにお答えします。

この2句一組の言葉は、有名チームも含めて日本の多くのチームで使われています。それは全く自由なこととてやかく言うべきものではありません。以下私見です。

英語のラグビー関係の資料や本や雑誌や新聞などでこの言葉を特に取り上げているのを読んだ記憶はありません。これは共産主義教育の用語であると理解しています。

one for all, all for one という言葉の思想の先に、生きるための食料を初めとして富の広く行き渡った社会の実現が目指されています。ヒューマニズムで自由と自主を求める社会思潮の元で、flair を生かして戦うプレイヤーたちのラグビーを楽しむ精神に本来的になじまないものだと言うべきでしょう。

後の句 all for one だけならば次のような時に使われることがあります。基本的教科書 BETTER RUGBY の In the beginning の On with the Game の項の後段に次のように書かれています。

It could be much better to play the biggest and strongest player on the wing; the rest of the team then have to work to give him possession. He will still score most of the points but at least the rest of the team will have contributed and enjoyed the game.

biggest and strongest player へのボール供給は、勝つための自発的選択なのです。

また、有名な Always on the ball というラグビー歌の歌詩の一節に、「FW がボールを取って順に回して Wing へ」回して・・・というところがありますが、この場合の Wing は 単なる one ではなく、味方で一番外側にいる味方にボールを回してトライをする心意気を詠ったものです。外側突破 frank out の frank は、FW の franker 外側にいる人の frank です。

例に上げたこれらの one は、単なる 一人ではないのです。試合に勝つ為にチームの全員が心をつなげて「チームのため」for the team に頑張ろうという意を詠ったもので自由で豊かな心から flair を生かして競技を楽しむスポーツの原点を詠ったものです。

長島監督はチームを鼓舞するのにチームの象徴である旗を掲げて「For the Flag」という言い方をしましたが同じことで、「～の旗の元に」というのも同じです。

試合に勝つ為に one for all を心がけて一人一人が克己の精神で全力で頑張る事は必要なことです。時にはそう言っても、2 つの句を一組で使うことは一考を要することです。この言葉の一組を好きで使うのは自由です。自由という点では「前へ！」というのも同じことが言えます。原理としてはイングランドが総力を上げて抽出した「Go forward. Support. Continuity. Pressure.」を一組にして使う研究が重要です。敢えて「前へ」を使う場合は、10cm 前に出てボールを獲得し、オープン展開し、support して、continuity して、虚点を「前へ」です。相手に常に pressure をかけ続けることを忘れてないことです。10cm という数字は、スクラムの押しの要点が push から shove に書き替えられた時、生きたボール獲得のために大切な「10cm shove」が強調されたことによるものです。4Principles は絞りこんだ究極のものであることを認識し短絡的にならないことことが大切です。

2007.02.24  
西川 義行